

産業技術総合研究所 自己評価検証委員会
エレクトロニクス・製造領域分科会 議事要旨

1. 日時：令和3年3月8日（月） 9：40～15：05

2. 場所：Web 会議による開催

3. 議事概要

(1) 領域の概要とマネジメント エレクトロニクス・製造領域 領域長 安田 哲二

➤ 資料に基づき、領域のマネジメントについて説明が行われた。

(2) 社会課題の解決に向けて全所的に取り組む研究開発

○全ての産業分野での労働生産性の向上と技能の継承・高度化に資する技術の開発

インダストリアル CPS 研究センター 研究センター長 谷川 民生

➤ 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、社会普及のための戦略などについて質疑応答を行った。

(3) 経済成長・産業競争力の強化に向けて各領域で重点的に取り組む研究開発

○情報処理のエネルギー効率を飛躍的に向上させるデバイス・回路技術の開発

新原理コンピューティング研究センター 研究センター長 湯浅 新治

デバイス技術研究部門 副研究部門長 昌原 明植

➤ 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、電圧駆動磁気ランダムアクセスメモリ、AI チップ拠点などについて質疑応答を行った。

○データ活用の拡大に資する情報通信技術の開発

プラットフォームフォトリソグラフィ研究センター 研究センター長 並木 周

➤ 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、光コパッケージ技術や異種材料接合などについて質疑応答を行った。

○変化するニーズに対応する製造技術の開発

製造技術研究部門 研究部門長 芦田 極

➤ 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、開発したサーメットの実装検討や部材のライセンス戦略などについて質疑応答を行った。

(4) イノベーション・エコシステムを支える基盤整備

○多種多様なデータを収集可能にするセンシングシステム技術の開発

センシングシステム研究センター 研究センター長 鎌田 俊英

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、ウイルスの高速センシング、フレキシブルセンサなどについて質疑応答を行った。

○非連続な技術革新をもたらす量子状態制御基礎技術の開発

新原理コンピューティング研究センター 総括研究主幹 川畑 史郎
エレクトロニクス・製造領域 研究企画室 研究企画室長 澤 彰仁

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、量子アニーリングマシンの動作実証や社会実装などについて質疑応答を行った。

(5) 全体質疑

- 全体の質疑応答を行った。

(6) 委員討議

- 委員による討議が行われた。

(7) 主査からの講評

- 主査から講評が行われた。領域全体として高いレベルの研究を行っていること、領域オリジナルの技術を増やすこと、300名近い研究者をエンカレッジする取り組みに期待することなどについて言及があった。

4. 分科会委員（敬称略、委員五十音順）

財満 鎮明	名城大学大学院 理工学研究科 教授（分科会主査）
吉良 秀彦	富士通アドバンステクノロジー株式会社 執行役員
田島 節子	大阪大学 名誉教授
野村 武史	昭栄化学工業株式会社 取締役